

人形芝居復活の幕開け

盛岡

淡路の演じ手招き上演

江戸時代初期、兵庫県の淡路島から盛岡藩に伝わった「淡路人形」による芝居が復元され、12日、盛岡市鉾屋町のもりおか町家物語館で、本場の淡路人形座の座員により、約230人の観客を前に上演された。複製された人形は同館で管理し、伝統芸能の復活に向けて活用される。

(浅川貴道)



完成した淡路人形の複製を使い、淡路人形座の座員による実演が披露された(12日、盛岡市のもりおか町家物語館で)

淡路人形による浄瑠璃芝居は、500年以上前から淡路島で演じられ、文楽のルーツといわれる。江戸時代にも1641年、人形遣いが盛岡藩2代藩主・南部重直に招かれて定住しており、

記録のある限り淡路人形芝居としては日本の北限とされる。

その後、盛岡で浄瑠璃芝居は行われなくなったが、人形遣いの子孫で、盛岡出身の会社員鈴木茂さん(57) (滋賀県守山市)らが、「盛岡に伝わっていた貴重な芸能を復活させたい」と、昨年頃から鉾屋町の実家に伝わる江戸期の淡路人形を複製する取り組みを進めてきた。

人形は300年以上前につくられた可能性もある。破損の心配もあるため、早

立大の土井章男教授(情報工学)が、CTスキャンで内部を解析し、3Dプリンターを使ってアクリル樹脂で復元。目を動かすから

りまで再現した。

また、衣装は県内の印刷会社などが、生地にデジタルプリントする方法で再現。元の衣装の破れた部分の柄なども推定して補足した。今年5月に2体のレプ

リ力を完成させた。浄瑠璃芝居の演じ手は、県内にいないため、兵庫県南あわじ市の「淡路人形座」に協力を仰ぎ、公演に引き寄せた。

この日は、主に神事などで奉納される「三番鬼」が披露された。本場の人形遣いにより、2体が息を合わせて舞を見せると、会場から大きな拍手が上がった。人形を操った淡路人形座の

坂東千秋支配人(52)は、「レプリカとはいえず、とても精巧に作られていた。これを機会に盛岡と淡路の交流ができれば」と話した。鑑賞した鈴木さんは「感無量。これから、若い人たちに使ってもらい、盛岡の新しい目玉になれば」と、喜びを語っていた。同館は今後、人形のレプリカで、若者への講習などを通じ、人形芝居の定着を図る。

奥深き淡路人形浄瑠璃

盛岡で復刻版使い上演

つたといわれる盛岡藩主南部重信公に奉納するものが習わしたとの記録もあるという。

盛岡市鉦屋町の鈴江家と人形浄瑠璃の関わりについて、奥立大の家で発見された「北限りの淡路人形」の復刻版「トウエエ情報学部の人形を披露する上演」と土井章男教授が3Dプリンタなどの最新技術を使った復刻版制作について講演した。形遣い、鉦屋町鈴江家の鈴江家に伝わる古文の錦絵展」を機に始まった。人形の衣装復元は奥内の印刷社や呉服店なども協力した。毎年正月4日、上演されていた人形浄瑠璃の奥深い世界に、触れた。

復刻されたのは鈴江家で1987年に発見された、現在県立博物館が所蔵する「三番更」と「千歳」の2体。兵車県南あわじ市から淡路人形座の坂東千太郎支配人らが豊作や、一年の安寧などを祈願する「三番更」を披露。荘重な舞から生み出される深遠な世界に会場からため息が漏れた。上演に先立ち、鈴江家現当主の茂さんが同



淡路人形座の人形遣いの上演によって披露された千歳と三番更(右)の復刻人形願う。

れてもらほか、子どもたちの体験学習などにも活用する。鈴江さん

は「今後は希望者に使用機会を設けたい」とどの文化交流流にもつな

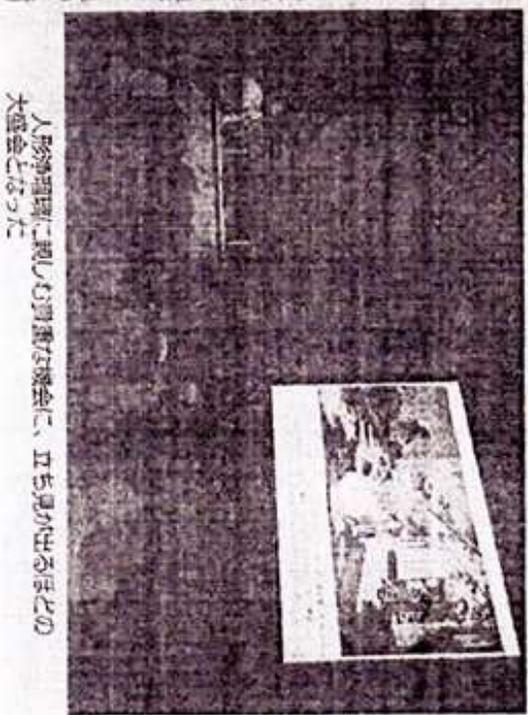
盛岡タイムス 2015年9月12日(木)

江戸期伝来の芸術に

淡路人形浄瑠璃WS

町家館

館盛町鈴江家・北限
の淡路人形復刻上演
「淡路人形浄瑠璃」
クシヨウナ(W.S.)
が12日、盛岡市銘屋町
のもりお町家物語館
浜藤ホールで開かれ
た。同演オプニ周
年企画。市長ら20
人以上が参加し、江



人形浄瑠璃に親しむ児童が様々に、立ち見が出るほどの大盛況となった

時代に伝えられた人形
関と連携して進めた調
査について報告。鈴江
さんへの先祖である鈴江
に理解を深めた。後半
は淡路島から訪れた淡
路人形屋の淡路人形浄
瑠璃について説明し
て、正月に代盛岡藩
主南部重直の前世人形
目三番重(さんげ)と
目三番重(さんげ)と
う」を上演した。
なぞが明らかになっ
たという。

事かつ着展した芸能で
あひ、今から300年
以上前に淡路の三條村
（現在の兵庫県南あわ
じ市いちご三條）
に伝えられたと言われ
る。淡路の人形座は至
国各地を巡遊し、人形
浄瑠璃の普及・発展に
大きな役割を担った。
淡路人形普及の北限は
樺島真と言われていた
が、1987年に盛岡
市銘屋町の鈴江家と淡
路人形が発見されたこ
とで定説は覆された。
WSの冒頭では、給
物膳の長内努通長、現
江家の現当主である鈴
江茂さんが浄瑠璃人形
や古文書の見見、県立
博物館や淡路の関係機
構と提携の職人技を
展示したという。

製作したという。人形を
Tマキヤとして3D
が完成している。
鈴江さんは「衣装の
再現は5年前にでき
たから、今形本
体には県立や彫刻家
（製作の言葉もあり、
生地でできたので再
現していただくに感
謝する。今後は、また
県内の印刷会社や呉服
店も協力し、普及端の
を推していく」と
意欲を語った。